

第3回 千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会 議事録

■日 時：令和7(2025)年11月17日(月) 18:00～19:45

■会 場：千代田区役所 4階 601 会議室

■出席状況：出席委員9名

■千代田区：事務局4名

■議 題：(1) 前回委員会の振り返りについて

(2) 計画素案について

(3) その他

(議事要旨)

1. 開 会

2. 議 題

※ ●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

(1) 前回委員会の振り返りについて

〈事務局から説明〉

●52 ページの黄色の吹き出しのところに「地域によってラジオ体操の運営方法が異なる」とあるが、これはここにダイレクトに関係することなのか。

➤事務局) これはラジオ体操に関しての意見を載せているので、ほかのところも含め、直接、関係ないことも入っている場合がある。

➤事務局) ラジオ体操は地域によって違うので、地域ごとの取組を記録して発信することもレガシーの継承であり、次の人につなげる取組の1つになると考えている。

●地域で運営方法が異なることを、ネガティブな意味で載せていると勘違いした。

➤事務局) ネガティブな意味ではない。それぞれの地域でやりやすい形でやっている

委員長) 読まれる方が誤解されない表現方法がいい。

●町会が中心になってラジオ体操をやっていると思うが、景品などの違いはあるのか。

➤事務局) どのような経緯でその景品を用意しているかは分からないが、やっている人に聞いたら、その経緯が分かるかもしれない。

●実施する団体が地域によって町会だったり、学校だったりベースが違うので、考え方が違う。大きなところになると人数も多く、そんなに豪華なものを出せないが、町会によっては子どもたちの朝の活動はとてもいいことで、地域の活性化になるからと考え、豪華になる場合もある。

➤事務局) そういった話は面白いと思うので、記録することは大切だと思う。

➤委員長) もしかしたら、いいやり方をしているところのまねをすることも考えられるかもしれない。

➤事務局) 何十年とやられており、少しずつ変えてきているとは思っているので、お互いにいいところは取り入れて、続けていけるのが一番だと思う。

●委員長) 基本目標5に「を通じて健康で」という文言を追加したとのことだが、基本目標の1から5まで全て健康に関連しているのに、基本目標5だけ「健康」と入るのは違和感がある。「を通じて」だけでいいのではないか。

➤事務局) この5つの基本目標が何を成果目標にしているのかが38ページにあり、基本目標5は「スポーツで主観的な健康時間が向上していると感じる区民の増加」を成果目標しており、ほかの基本目標の成果目標と違い「健康」というワードが入っているので、基本目標にも「健康」というワードが入った。成果目標をどうするかによって、基本目標も調整がかかると考えている。

➤委員長) 暮らしやすい社会にするのが基本目標5の目標になると思うので、それを測定するいい指標があるならそちらに変えてもいいと思う。

●「健康」イコール「暮らしやすさ」は結びつかないと感じる。成果目標の「健康時間が向上していると感じる」ときは何かと考えると、自分は健康保険証を出す瞬間だと思うので、もう少し分かりやすい指標のほうがいいと思う。

➤委員長) スポーツを通じて社会活動ができ、それが暮らしやすさにつながるという解釈の仕方もあると思う。スポーツを通じて自分がコミュニティの中にいるという安心感が得られることは、スポーツの大事な部分だと思うので、そちらを聞いたほうが指標としていいのではないか。

➤事務局) 我々のほうで検討したのは、基本目標5にぶら下がる施策がスポーツそのものより、スポーツ環境を整える事業が多いので、環境が整備されれば健康と感じると考え、それが成果目標になると思ったが、分かりづらいとのことなので、基準になるものを今あるデータから探して、分かりやすいものに整理したいと思う。

➤委員長) 基本目標の1から4が健康につながらないものという誤解を招かないように基本目標5についても文言を考えていただきたい。

●成果目標について、全ての目標が基準からプラス5%くらいになっているのは、どうしてか。ただ5%を足しただけなのか。

➤事務局) 現在の東京都スポーツ総合推進計画の中に同じ成果目標を掲げているものがあり、それを参考としたのが基本目標の2と4で、同じ伸び率に設定している。基本目標3については、現行計画の目標が70%だが、未達成なので、まずはそれを目指すために70%にしている。基本目標1に関しては、ほかの基本目標の伸び率に併せて5%程度にしている。

➤委員長) 今まで東京都で取っていた統計を千代田区で使っているものがいくつかあるのか。

➤事務局) 東京都はあくまで東京都民に対してアンケートを取っており、千代田区も同じように千代田区民にアンケートを取っている。同じような設問があったので、共通部分を参考にしている。

➤委員長) 東京都が実施しているアンケート項目を千代田区のアンケートでも項目として取り入れいるのか。

➤事務局) 東京都のアンケートにある項目だから、千代田区のアンケートでも聞くようなことはある。

●34 ページの基本理念に「スポーツで輝き」とあるが、何が輝いているのか。「時をつなぐ」とあるが誰がつなぐのか。「ふれあいが広がる」とあるが、日本語として正しいのか。主語が多くあるように感じ、もっとすっきりできないのだろうか。

➤委員長) 「ふれあいが広がる」が日本語として合っているのかは別にして、キャッチフレーズは日本語である必要はあるのかということもある。

➤事務局) 主語述語の対応をきちんと定義してしまうと文章になってしまう。文章にするというよりは、このキャッチフレーズを見て、みんなにイメージを湧いてもらうのが一番の目的である。

●普通、キャッチフレーズには主語は書かないが、「誰が」かが分かるようになっている。これはそれが分からない。

➤事務局) その下の説明に「スポーツで輝き」は「年齢、性別、国籍、障害の有無、在住・在勤・在学といった枠を超えて」とあるので「人」になる。

●ただそのあとに「人生が輝く」とあり、「人」が輝くが難しいので、何が輝くのか分からない。逆にそれぞれで感じてもらえればいいのか、それでいいとも思う。最初に「スポーツで」を持ってくると難しいと思うので、「輝き、つなぐ、ふれあうスポーツ～」のような形でいい気がする。基本理念だから、文章である必要はないが、この基本理念を見ると文章のようにしているように見えたので、気になった。

➤事務局) 単語だけつないで、最後に「スポーツのまち」にしたほうがいいのか。

●「時をつなぐ」だと時間だけに限定してしまうので、そのほうがいい。「ふれあう」も人と

つながっているのだと思う。

➤委員長) 全てが全てにかかっている関係であり、それをみんなが見て理解してもらえるのかということだと思う。

●ふれあっていくと、どんどん次につないでいるという意味もあるのだと思う。

➤事務局) 前回、レガシーに関して議論にあったので、千代田区にあるスポーツの資源を今後大切にして、次代につないでいく意味で「時」という言葉を入れた

●やったはいいが、あとは使われていないことが問題となっているので、レガシーは必要だと思うが、「時」だけではないと思う。

➤委員長) 全て「も」が入り、時「も」つながるし、ふれあい「も」広がるという意味合いだと思う。

➤事務局) 全てが並列の関係になる。確かに主語が微妙に違う可能性がある。

➤委員長) 「スポーツで人生が輝き……」

➤事務局) 「人生」だけではなく「人」もあると思う。「スポーツで私なりに輝き……」という意味も入っている。

●言いたいニュアンスは分かるので、捉える人によって感じ方が違って、それはそれでいいのではないかという気がする。

➤委員長) 基本理念に含まれている内容は皆さん同意しているが、もっといい表現の仕方もあるかもしれないし、ないかもしれないというところか。

●このようなキャッチフレーズを作るときに、プロのコピーライターなどは入るのか。

➤事務局) そこまではしない。

➤副委員長) 例えば、言葉は「時をつなぎ」と「時をつなぐ」というように、少し違って感じ方がかなり違う。

➤事務局) 確かに「輝き」で切るのかでも、違う印象を与える。

➤委員長) 「スポーツで輝き、時をつなぎ、ふれあいも広がる」なら全部がつながると思う。

➤副委員長) 全て「ぎ」でいくとくどい感じがする。

➤委員長) 基本理念なので文章ではないのに、文章のようになってしまう。

●プロのコピーライターに考えてもらうと、少しだが驚くものを作ってくれる。

➤事務局) コピーライターを雇う予算がない。

●ジャパン総研さんのほうでコピーライターを用意できないか。

➤ジャパン総研) それは難しい。

●これくらいならそんなにかけられないと思うので、皆さんの時間給のことを考えると頼むほうが安いかもしれない。

- 委員長) さらに検討いただくということでいいか。
- 事務局) 次回が最終回となるので、委員長と事務局で相談して、その結果を報告するという形はどうか。
- 委員長) パブリックコメントで基本理念についての意見が出るかもしれない。
- 事務局) あり得る。
- 委員長) 次回では修正ができないのか。
- 事務局) 次回は2月を予定しており、最終案をご提示することになると思う。
- 委員長) 基本的な内容が変わらなければ、少しだけの変更は可能か。
- 事務局) 少しだけなら大丈夫である。
- 委員長) 今の議論は、基本理念のところ内容のコンセプトはそのまま表現を変えるということなので、引き続き、検討をお願いします。

●基本目標4の「スポーツを支える」について、施策を見ると「支援」となっており、行政が「支える」ことに思えるが、「スポーツを支える活動をする区民の増加」となっている。いろいろなところにかかっており、整合性がとれていない気がする。

- 委員長) 事業のところにある「支援」は行政がおこなう「支える」だが、「4.3 指導者・パラスポーツを支える人材の確保・育成」の「支える」は市民がおこなう「支える」なので、分かりづらいのだと思う。
- 事務局) 基本目標4の「支える」には両方の意味がある。「4.1 地域のスポーツ団体への支援」と「4.2 地域のスポーツクラブ、サークルへの支援」は行政側の「支える」になり、「4.3 指導者・パラスポーツを支える人材の確保・育成」はスポーツを「支える」側の人を育ていくことになる。
- 委員長) 表現上は、このようにせざるを得ないなのか。

●支援は行政側もあると思うが、成果目標を見ると市民が「支える」ものになっている。

- 事務局) 「4.1 地域のスポーツ団体への支援」から「4.4 地域のスポーツ・レガシーの継承」までの活動全てをひっくるめて、最終的にはスポーツを支える人材を育てる形につながればと考えている。

●「支える」という言葉は幅が広いと思ったので、質問した。

- 事務局) 指摘のとおり「支える」をどこまで言うのかはあると思う。アンケートでは、子どものスポーツ活動を手伝うことなどをはじめとしたスポーツ活動を支える活動をおこなった割合を聞いている。行政が直接どれだけ支えたのかを指標化するのは難しいので、スポーツを支えている人たちを支える団体を、行政として支えて、最終的にはスポーツを支える活動をした

人の割合が増えれば、施策が反映させたと考えていいと思っている。

●部活の手伝いなどを、学校としてはボランティアと言っているのですが、ボランティアと言ってくれたほうが、学校としては分かりやすい。今の文章だとボランティアも「支える」であり、行政の施策も「支える」なので、意味が広すぎる気がする。

➤事務局) 表現を工夫したいと思う。

●5 ページの左下の雲のような表現は何を指しているのか。

➤ジャパン総研) マルチスポーツなので、全部のスポーツを雲のような表現でくくりたかったが、それができなかったで、そのままになっている。最終的にはいろいろなスポーツを同時期におこなうことを表現したいと思っている。

(2) 計画素案について

＜事務局から説明＞

●委員長) 改善が必要なのに「継続」となっているが、「拡充」にする必要があるのではないか。所管課が生涯学習・スポーツ課でないといけないことか。「継続」でも解釈の仕方によっては「拡充」というものはあるのか。例えば、「5.2 スポーツを身近でできる場・機会の確保」のところで、区民アンケートでは場所が少ないという指摘があり、それが暮らしにくさにつながっているという意見があるが、取組の「公園・広場のスポーツ機能の確保」が「継続」となっている。これではこれまでと同じということにならないか。そうでないなら「拡充」にすべきではないか。

➤事務局) 「継続」は去年と全く同じことやっているわけではなく、事業の見直しを毎年おこなっている。「公園・広場のスポーツ機能の確保」も既存の施設を維持だけでなく、既にある公園を改修して新たなスポーツ施設を造ることもやっており、スポーツができる環境を増やす取組は「継続」しておこなっている。ただ指摘のように間違った印象を与えかねないので、

「継続」、「拡充」、「新規」の3つワードを使っているが、整理して、誤解を与えない表現を検討したいと思う。

➤委員長) 一般的に「継続」とすると同じことの繰り返しを行っている解釈になり、発展していることを「継続」とするのは違うと思うので、その辺りの表現を検討いただきたい。

●「拡充」は新たなものを加えるというイメージなので、「新規」、「拡充」がこのように多くあって大丈夫なのかと思う。それぞれの施策の中に「新規」や「拡充」が入っており、「継続」も何もしないわけではなく、時代時代に合わせて、それ以上のことをやらないといけないので、大変だと思う。

➤委員長) 頑張っていることが表現できないことは、もったいない。

●基本理念に従って、きちんと整理はされていると思う。

●パラスポーツに関して、スポーツ推進委員の役割として、新たに障害者についての文言が入れているが、生涯学習・スポーツ課以外にも障害者を管理している部署もあると思うので、そこでの「連携の促進」のような文言を入れてほしい。

➤事務局) 障害者向けのスポーツイベントをおこなうときに障害者施設にポスターを貼らせていただいたり、日曜青年教室だと障害者福祉センターえみふるなどと情報共有をしているが、もっとそのようなところと連携が深まれば、スポーツ推進委員さんがやっているようなニュースポーツなどの参加率も増えてくると思うので、連携について、計画に落とし込めればいいなと考えている。

●パラスポーツは学校をはじめ、交流をかなりおこなっているなので、それを広めていければいいと思う。

➤事務局) 障害者部門だけでなく、教育部門との連携も落とし込んでいきたい。

●交流的なものが入っていると一体感が出ると思う。

➤委員長) 書かれている所管以外が関わっていないと思われぬように、連携する文言を入れておくことが細かい施策を作るときに重要になると思う。

●「高齢者」とは何歳の方を想定しているのか。60歳以上か。

➤事務局) 60歳以上は今だと現役世代になると思う。

●60歳以上の区民の割合は多いと思う。高齢者のイベントは実際におこなっているのか。

➤事務局) スポーツセンターやかがやきプラザなどで実際におこなっている。

●「生活機能低下防止事業の実施」とは具体的にどのようなものか。

➤事務局) 在宅支援課がおこなっている事業となり、フレイル対策事業を通じて、生活機能低下の防止を図っている。

●生涯学習・スポーツ課とは一緒にやっているのだから分かるが、ほかの課がどのような事業をおこなっているか分からないところがある。それを区民が見て分かりやすくなるようにお願いしたい。

●手術をするとリハビリが必要となるので、スポーツセンターにそのような機能を持たせるのはどうだろうか。この計画はスポーツ振興だが、健康に長生きしてもらうことが重要なので、このようなこととセットになることもあると思う。

●委員長) 47 ページの「3.4 高齢者のスポーツの推進」のところにある「② 高齢者活動センターでのスポーツ活動の実施」では、スポーツプログラムを在宅支援課が提供していることになっているが、スポーツセンターでも情報提供をおこなっているのも、生涯学習・スポーツ課と既に連携していてもおかしくないと思うが、どうなのか。

➤事務局) 在宅支援課でおこなっているが、こちらで把握していない事業があると思う。

➤委員長) 「3.4 高齢者のスポーツの推進」のところが在宅支援課のみになっている。在宅レベルの高齢者でない元気な高齢者について、手の入っていない部分になってしまっているのかもしれない。

➤事務局) 計画では全ての高齢者の健康寿命の延伸を目標としている。

➤委員長) 所管が在宅支援課となっているので、高齢者と働き盛りの人の間にいる層が取り残されている施策になっている。

➤事務局) 在宅支援課で高齢の方に来てもらい運動してもらって講座を開いており、スポーツセンターでおこなう場合もあるので、そのような形の連携はあると思う。働き盛りの人と在宅支援課が対象とする高齢者の間にいる方々に対しては、スポーツ施設の中核はスポーツセンターなので、その人の状況に応じたスポーツに取り組めるプログラムや講座などがあってもいいのではと話聞いていて思った。実際に高齢の方を対象としたプログラムはあるのだが、もっと幅広い層を対象としたものをスポーツセンターと相談しながら考えたいと思う。

➤委員長) スポーツセンターに1人で来られた高齢者に対して、常駐の方が対応してくれる体制が整えられていることは素晴らしいことだと思うので、受け入れる側のスタッフの充実させることが、働き盛りの人と在宅支援課が対象とする高齢者の間にいる方々も参加しやすい状況を作りたいと思う。そのようなソフト面を充実させることで、さらなるスポーツ推進が図れると思う。

●障害者や高齢者だからといっても、46 ページや 47 ページに書かれた事業だけに参加できるのではなく、一般のスポーツ教室にも参加できる。ここに書かれているのは、あくまで障害者や高齢者に特化したものであり、どこかほかのところに「この教室は誰でも参加できます」という文言が入ると今の話はかなり解決すると思う。

➤委員長) 横割り縦割りではなく、連携をおこない、いろいろな層にも対応していることをどこかに書いていただくと必要だと思う。

➤事務局) その辺りは工夫させていただきたいと思う。

➤委員長) 運用していくための指標を作っておかないとうまくいかないと思う。

(3) その他

3. 事務連絡

今後の予定について、事務局から説明

4. 閉会

委員長)第3回千代田区スポーツ振興基本計画策定委員会を閉会する。皆さんありがとう。